ハワイ大学の研修を終えて

東北大学病院　後期研修医　鴨川由起子

アメリカの医療と日本の医療の差異とはどのようなものか興味があり、今回研修に参加させていただきました。1 週間ほどの研修でしたが、とても多くのものを興味深く学べたと思います。今回の研修で学んだことを簡潔に言うとすれば、良くも悪くも日本とアメリカの医療は両極端に位置するということです。

アメリカの医療システムは医師にとってはとてもいいものだし、日本の医療システムは患者にとってはとてもいいものだということがわかりました。医師の負担を軽くするのであれば、患者の負担が増え、患者の負担を軽くするのであれば、医師の負担が増えることになる。そういった意味で日本とアメリカの医療は両極端にあると感じました。そして、日本がアメリカから吸収すべきものがあるとすれば、同じだけアメリカも日本から吸収すべきものがあるのではないかとも感じました。

今回の研修で一番印象に残ったのは、アメリカの医学教育のレベルの高さです。私は学生時代、授業が面白くなくて、ほとんど出席しなかった人間だったのでアメリカの教育システムはとてもうらやましく思いました。そして、それは研修医に対しての指導体制にも言えることでした。アメリカの体制だと、日本のように雑務に時間を取られること無く、肝心の医者の診断能力や検査値を読む能力や治療能力がいち早く身につくと感じました。Machi 教授が講義されていた中で「我々は医師であり、研究者であり、指導者だ」という言葉が特に印象的です。日本の医師たちは自分たちが指導者だという自覚のある人が少ないとのこと。アメリカでは学生が指導者の評価もできるとのこと。これは素晴らしいと思いました。研修医になってから、指導医に恵まれず不満を覚えたことも少なからずあり、とても共感してしまいました。日本の医師たちは忙しく、下の指導に手がまわらない状況であるのは確かです。しかし、しっかり指導して少しでも早く新人を育てた方が、結局は指導医たちの負担を軽くできるのではないかと、私は常日頃から思っていたので、とても共感できる意見でした。

Tokeshi 教授の診療もすばらしかったです。彼の日本的な仁や義の思想が診療に生かされ、そして、それがアメリカの中で称賛されていることを目の当たりにし、日本の医療にもすばらしいものがあるなと感じました。「医療を金儲けの手段にしてはいけない」と彼は話されていたが、日本ではあたりまえに存在する考えです（ただ、最近はそういう考えの医者は減ってきているようにも思えますが)。アメリカのレジデントがあたりまえのようにお金や QOL のために自分の将来進むべき道を選んでいるのに驚顎しましたが、それはアメリカのシステムのなかで必然的に生まれたものであり、良いとか悪いとか一概には言えないとは思います。ただ、Tokeshi 教授のような思想は、日本という土壌の中で自然と生まれてきた良いものであり、日本の医療の中で今後なくなってほしくは無いものの一つだと思いました。

医学部の入試制度に関しては、アメリカの制度にはすばらしい面はありますが、アメリカの制度をすべて導入する必要はないと思いました。年齢が高くなってから仕事を始めると、お金を稼ぐ方向に人が流れてしまい、自分の興味ある分野ではなく、お金が稼げる分野に進む人が増えると思います。実際にアメリカのレジデントはそうでした。学問的に興味のない分野を仕事にすることはそれ自体すごくストレスのかかることだと思います。QOL を重視することは良いと思いますが、お金だけで進む道を決めてしまうのはあまり良くない気がします。確かに、先にも述べたようにアメリカの医学生や研修医のレベルは日本のそれと比較すると、とても高く優秀ですが、それは大学入学後の教育システムの違いから生じるものであって、その後医師になってからアメリカの医師のほうが日本の医師より特別優れているというわけでもなく、結果的には入試制度の違いは問題ない気がします。良い点だけ吸収すればいいのではないかと感じました。また、アメリカは多民族国家であり、読み書きより話し言葉が重要な国家で、それならばアメリカのような入試制度がアメリカにとっては一番適していると思います。しかし、日本民族は単一民族で歴史的に世界で一番識字率が高く、話し言葉より読み書きが得意な民族で、それならば、今のまま高校生の時点で学力試験で判断していくのが日本にとっては一番無駄が少なく、漏れの少ない制度だと思います。高校生の時点で進路を決めるのは早すぎるといった意見もありましたが、もともと高い能力を持った人間を早いうちに選抜してしまうのは悪くないと思います。アメリカのようにもっと年齢を高くしてから選抜すると、能力のある人が金稼ぎに走ってしまう可能性が高くなると思います。そうなると、現在のアメリカがそうであるように、一握りの能力のある人間に富が集中してしまい、その一握りの人間だけしか生活の安定を得られなくなってしまうからです。

研修中にはいろいろな先生方やレジデントの方々からいろいろな意見を聞きました。今後世界がますますグローバル化する中で、日本だけ取り残されていくのではないかといった意見も聞かれました。多民族が集まり機能している多国籍国家であるアメリカ、すなわち、世界で一番グローバル化が進んでいる国家と、単一民族で外来民族の侵略を受けたことがなく、古い歴史や文化が脈々と受け継がれている日本。この二つの国家を比較して、二つの全く異なった土壌で、異なった文化や価値観や国民性が生まれ、その中で全く異なった制度が生まれたことは必然であり、どちらの制度が優っていてどちらの制度が劣っているといったことを問題にするのは全く意味の無いことである。ただし、今後世界がグローバル化していく中で、日本がどのような方向性をもって進んでいくかがとても重要であり、アメリカのように多くの民族を受け入れ、多民族国家として進んでいくとしたら、アメリカの制度をすべて導入していけばいいのである。それが日本の土壌に受けいれられればの話であるが。

どんなに社会がグローバル化し、どんなに多様な価値観や思想が新しく入ってきたとしても、その国家をとりまく環境や土壌というものは変わらない。そして、その環境や土壌から自然に生まれたものが一番その国家に適している。どんなに世界が変化しようとも、

その国家に本来ある根本的なものは動かさないことが重要だと思います。もともとあった制度は変えず、外国にある優れた部分、そして日本に本来ある優れた部分を失わないようなものを、急にではなく徐々に導入していくことが最良な方法ではないか。これは、医療に限らずすべての分野で言えることである。そして、それは日本に限らず、すべての国家にも言えることで、それこそが真のグローバル化だと思います。

今回の研修を通して、医療だけでなく、そこから文化、歴史、政治、社会などいろいろな分野についても広く考えさせられました。そして、アメリカの良さに触れ、また、日本の良さを再認識するいい機会にもなりました。もし、機会があるのであれば、アメリカ以外の国家の医療も見てみたいと思いました。また、語学についても今後勉強するモチベーションを高めるいい機会にもなりました。このような有意義な機会を与えていただいたことにとても感謝しています。今後も同じような企画が続き、これから研修医になる方たちが私と同様に有意義な海外研修の機会を与えられることを期待します。